

---

---

## 第3回 東京都北区子ども・子育て会議 議事要旨

---

---

[日 時]

平成 25 年 9 月 12 日（木） 18：30～21：00

[会 場]

北区役所第四庁舎 3 階第一研修室

[出 席 者]

岩崎会長、神長副会長、半田委員、我妻委員、荒木（正）委員、小俣委員、佐田委員、鹿田委員、鈴木（將）委員、堀江委員、宇田川代理委員、小針委員、坂内委員、鈴木（香）委員、橋本委員、松本委員、内海委員、大塚委員、小川委員、柴田委員、竹内委員、田淵委員

[次 第]

1 開会

2 議事

（1）ニーズ調査票について

（2）その他（今後のスケジュール等）

3 閉会

[配布資料]

資料A	ニーズ調査票に対する意見・要望等一覧
資料B	12～18 歳用調査票（9 / 12 時点）
資料C	小学生用調査票（9 / 12 時点）
	調査票のイメージ

〔議事要旨〕

1 開会

【会長】皆様、こんばんは。定刻になりましたので、第3回北区子ども・子育て会議を開会いたします。8月27日に第2回を開催して2週間後ということで、お忙しい中大変恐縮です。前回のご要望にお答えして、スペースを広くとっていただくため、急遽、会場を準備してもらいましたので、手狭かもしれませんがよろしく願いいたします。今日は、ニーズ調査の内容の検討を行います。では、事務局より、本日の委員の出欠についてご報告をお願いします。

【事務局】今日は急な会議の設定にもかかわらず、たくさんの委員の方にご出席いただき、ありがとうございます。本日、ご欠席と連絡をいただいているのは荒木（康）委員、星委員、松澤委員の3名の方です。荒木（康）委員の代理として、小学校長の宇田川委員がご出席の予定となっております。また、半田委員、鈴木（将）委員は遅参、小川委員が早退なさるという連絡をいただいているようですが、まだいらしていないようです。酒井委員もまだいらしていないようです。ですが、過半数で定足数を満たしていますので、ご報告させていただきます。

【会長】ありがとうございます。まず最初に、事務局より資料の確認をお願いします。

【事務局】今日は前回の資料7から14を持ってきていただきたいとお願いをしました。メールで資料を送らせていただきましたが、「調査票のイメージ」という国の資料は配布させていただいております。また、今日新たに「資料A」「資料B」、「資料C」の3点を配らせていただきました。資料Aはニーズ調査票についてのご意見をいただいたものを事務局でまとめさせていただいております。文言の整理などについては省かせていただいておりますので、ご了承ください。資料Bが12歳から18歳の調査票についてで、前は項目だけだったものを調査票の形にしたものをお配りしております。これにつきましてはご意見をいただいて、反映できるものは反映しております。資料Cは小学生対象の調査票ですが、これについても調査票の形のものを作成させていただきました。これも内容について、いただいたご指摘を反映できる意見については反映させていただいております。資料に不足がございましたら事務局にお申し付けください。よろしく願いいたします。

【会長】ありがとうございます。それでは本日の議事に入りたいと思います。今回は前回からの持ち越しで、ニーズ調査について検討をしていきたいと思いますが、事前にご意見をたくさん事務局にお寄せいただき、ありがとうございます。資料Aにまとめてありますし、調査票にも反映しているようです。その調査票の検討ですが、前回は申しましたように、5種類調査票があるので、単純に時間配分をしまして、1つの調査票について20分くらいでご検討いただければと思います。では、それぞれの調査ごとに簡単に資料説明をしていただき、ご意見をいただきたいと思います。小川委員から、就学児の保護者向けの調査についていろいろご意見をいただいているのですが、今日、他に会議があつて途中で早退されるということですので、まず、その就学児の保護者に対する調査から検討するというところでよろしいでしょうか。それではまず、事務局の方から就学児保護者の調査票の説明をお願いします。

## 2 議事

### (1) ニーズ調査票について

【事務局】最初に就学児の保護者向けの調査票について、検討をお願いしたいと思います。前回お配りしました資料9と10及びその参考資料をお出しいただけますでしょうか。今日お配りした資料Aの2ページ目をお出してください。資料Aの項目番号13、資料10の就学児の調査票についてのご意見をいただいております。調査項目から削除を考えている項目について簡単に説明させていただきます。

資料10の7ページをお願いします。次世代育成支援行動計画のアンケート、前回やったアンケート項目から削除を考えている項目ということで、備考欄に問11-1、「次世代育成支援行動計画の成果指標」となっております。成果指標ではありますが、削除する項目として考えております。問11-1と11-2は、「子育てしやすいまちだと思う理由は何ですか」というものですが、今回、国の設問で、北区の子育て支援の環境や支援の満足度の項目が設定されており、それについての理由を聞く項目がありますので、似た項目であるということで削除としております。

また、資料10の10ページを開いてください。そちらに問28と問33が、やはり成果指標であっても外すという項目になっていますが、成果指標として使えるのかという疑問があり、調査項目も多くなっていることもありますので、削除項目としております。

本日の資料Aに戻って、いただいたご意見で削除を考えている項目についてこれは聞くべきものではないかということで、削除したいという考えに至った理由を聞きたいというご質問がございました。全体的に言えることなのですが、調査票のボリュームの調整をするためと、成果指標ではない質問、今回、ニーズ調査が中心となっていますので、それから外れたものについては削除項目に分類されていることがあります。今回の問23、24、26、29というのは、資料10の例えば9ページの一冊下、「あて名のお子さんは、1日に何時間くらいテレビゲームやコンピュータゲームなどで遊んでいますか」、「家庭でお子さんに生命の大切さを教える工夫をしていますか」、「あて名のお子さんは、学校が終わったあとの自由時間に、どのように過ごすことが多いですか」という調査項目になっています。これについて、子どもたちがどのように過ごしているかについては今回、子どもに直接聞こうということで、小学校5年生や中高生の項目に入れさせていただいております。問26の「いのちの大切さを教える工夫」については、調査の流れからいくと、別の内容になってしまうのではということで、削除項目に分類させていただきました。就学児の問14については、内容的にこちらのミスですので修正させていただきます。問15、16については、前回の回答状況を示してほしいということでしたので、内容を示しております。

また、資料Aの3ページ、No. 15を選択した方の理由を問う項目がほしいということでした。これは「今後も北区で子育てをしたいと思いませんか」という項目で「3. できれば北区以外」「4. 近いうちに転出」となっているのですが、こちらは、就学児童だけではなく、就学前やひとり親への調査にも入っており、資料9の16-2で「満足度が低い理由」を選択式で聞いているので、そちらで代用できるのではないかと考えています。

また、資料Aの4ページ、No. 16で「子育てサークルとは何か」というご質問が2件ありました。説明を加えなくてはと思っておりますが、「子育て中のお母さんを対象に子育てに関

する情報交換、親同士の仲間づくり活動、親子ふれ合い活動を行っている団体」という形で考えております。こちらは、もう少しよい言い方がありましたら教えていただければと思います。

次の5ページ目、No. 17、これは前回の回答結果を知りたいということで、「お子さんが平日の放課後や学校が休みの土日どこでどのように過ごしていますか」という質問になります。それについては、回答を載せさせていただきました。No.18、放課後子ども教室の設問が必要ではないかということですが、「放課後子ども教室」ではなく、「放課後子どもプラン」として文言を修正して説明を入れたいと思っています。事前にいただいた質問やご意見については以上です。

【会長】ありがとうございました。それでは、就学児童の保護者に送る調査票についてご意見がありましたらお願いいたします。

【委員】3ページの「就労状況についてうかがいます」というページなのですが、こちらにもし入れれば、土日の就労について調べていただけたらと思います。最近は平日休みの方も増えていますし、土日に働いている方がどのくらいいるのかというのにも必要だと思いました。

【事務局】これについては、どういう形ができるか検討させていただきます。

【会長】他にいかがでしょうか。

【委員】大前提というか根本的なことを改めておうかがいしたいのですが、「調査票のイメージ」を読ませていただきましたが、就学前の子どもたちの保育ニーズ調査のようなイメージを受けました。改めて、検討会の資料を読ませていただくと、就学してからの保護者のアンケート、生徒のアンケート、ひとり親さんのアンケート、小学生のアンケート等あるということですが、関連してニーズ調査としてやる必要があるのかも疑問に思いました。ひとり親のアンケートに、離婚や死別などを答える項目が必要なのかどうか疑問に思います。もう1つは12歳から18歳への質問で、将来の仕事や結婚、子育てについて中学生、高校生に聞くことが必要なのでしょうか。将来的に変わっていくもので、出てきたアンケート結果が必要なのかどうか心配な部分があります。

【事務局】今は就学児の検討なので2、3番目は、それぞれの項目のところで再度お答えさせていただきたいと思います。現在、就学児のニーズ調査ですが国から示されているのは就学前の児童のニーズ調査をやってくださいということです。それにプラスして北区では、その他の子育て支援も含めてどうしていくかという視点が計画を策定するためには必要なもので、それについてのニーズ調査も一緒に行っていきたいと思います。また、前回計画を立てるにあたりいろいろと調査をしていますので、その変化も見たいということで、今回の調査票を作成しております。

【会長】ありがとうございました。よろしいでしょうか。お願いします。

【委員】今、ご指摘があったように、私はむしろ就学児に対するニーズ項目をいかに取り入れていくかが、より重要だと思っています。北区の乳幼児期の体制を整えていくことが一番優先課題だと思うのですが、もしそれがしっかりニーズを捉えることができ、それに向けてそのニーズに余すことなく取り入れていくのであれば、今後むしろ小学生以降の学童期や青年期に向けて、いじめや人権の問題に我々大人がどのような仕組みをつくって、伝えるべきことを伝えていくかが、より重要だと思っています。北区であれば、新興住宅地が増えているわけでもないので、そこにむしろ先見の明を持って取り組んでいくことが必要だと思います。このニーズ項目の中で、

「いのちの考え方」などの項目が削除されてしまっているのですが、むしろこういったものについて、北区としてどのような人材を使ってメッセージを発信していくのか、場を持っていくのかというところを、ニーズを踏まえて積極的に展開していただきたいという思いがあります。いじめの問題だったり、コミュニケーション能力が低いと言われていて、私は一般企業で採用などもしていますが、伝える力が子どもに付いていないのだな、大人が力を付けてあげていないのだなというのを実感しています。ですので、今後展開する放課後子どもプランというものがどういうメニュー、どういう機関、拡大策を持っているのか、それに合わせてニーズ項目をより具体的に投げていくことが必要かと思います。親からすると放課後子ども教室はあまり認知されていません。やっている学校は分かるかと思いますが、やっていない学校がほとんどですので、もっと具体的に、施策を見据えてニーズ項目をおとしていくべきではないか、というので何点か質問をさせていただきました。そのあたりの具体的な施策のところも合わせて知りたいと思うのですが、全般的には国の乳幼児期のだけの項目に比べて、ここの項目を取り上げているというのは、すごくこれからの北区の教育、あるいは学びの場、親が安心して働ける場に繋がるものになるのではと思っていますので、この項目についてはしっかり捉えてもらいたいと思っております。

【事務局】 今後、検討項目とさせていただきます。ありがとうございます。

【会長】 他にいかがでしょうか。

【委員】 いろいろな施策が展開されていて、一覧となっているのですが、区サイドからの表となっています。子どもの立場で区切ってみると学童期にはどのようなプランがあるのか、単発なメニューを一覧で見せられても非常についていけないという思いがありますので、それを単発メニューではなく、全国レベルで展開しているものが何なのか、年齢で区切っているのか、というところをもう少し分かりやすくしていただけるといいと思います。そうするともっとこういうものができるのではないかとすとか、すばらしい単発の施策があればそれは広げていったほうがよいのではないかとすることに繋がるかと思っておりますので、もう少し全体を一本化していただきたいと思っております。

【事務局】 ありがとうございます。計画を立てていく上で、どのような計画を立てていくかの検討の1つとさせていただきます。

【会長】 他にいかがでしょうか。ご意見が特にないようでしたら、二つ目についてよろしいでしょうか。

続きまして、就学前児童の保護者の調査票の説明と、事前にいただいた意見について説明をお願いします。

【事務局】 資料7、8と参考資料をお願いします。就学前のものになります。今日お配りした国の「調査票のイメージ」、国の会議の説明会の資料の番号が入っているので、資料1-5となっております。メールでも送らせていただきましたが、こちらが最終版として、国の子ども・子育て会議の検討結果として「調査票のイメージ」ができています。この「調査票イメージ」の青字の部分は量の見込みの集計上必要な項目となっており、対象は就学前のお子さんの保護者です。青で書かれているものについては基本的に国や都に報告しなければいけない項目になりますので、入れ込む形になっています。先ほどの就学児童と同じように資料8を見ていただくと、後半の削除を考えている項目の中に、成果指標ではあるものの削除対象となっているものもあります。これについては先ほどと同じような説明となりますが、問11と12については、

満足度と理由を聞く項目があるということ、それ以外につきましては、成果指標としてはどうなのか疑問点があるということで外しております。

資料Aでいただいたご意見について説明させていただきます。「調査票のイメージ」のところの文章が長くて読みづらいということで、一番最初のページの青字のものだと思います。確かに読みづらいのですが、基本的な考え方が書いてあり、かなり国の会議でも検討されている文言だと思うので、工夫はしますが難しい点であると考えております。No.2も同様です。No.3について、専業主婦が答えにくいというご意見もありました。こちらの調査票の対象が、お子様の名前でお送りし、「保護者様」というかたちでお送りいたします。父と母どちらが答えてもかまわないので、国の調査票を作成する時にも、父も母も立場的には対等ということで育児休業を取ったり、短時間勤務をしたりなど、父親でも母親でもありうるという調査票のつくりになっています。出た意見でいくと、母親が書いて、父親が育児に対して協力ということについては、父でも母でも子育ての責任があるという立場で、調査票が作られていると考えています。

次の項目のNo.4ですが、子育ての相談先で、前回北区では項目の選択肢の中に配偶者を加えているのですが、国が示しているものの中には「配偶者」がありません。これについて前回の調査結果を見ると、「配偶者」が一番多かったので、追加したほうがよいのかなと考えております。

次のNo.5の項目です。預けるにあたり重要視することと、かける金額についての設問を入れたらどうかということで、全体のバランスや量を見なければいけないとは思いますが、これは保育だけでなく、例えば幼稚園に預けるときやサービスを利用する時にどういうものを重視しているかということについて聞くことが必要かなと考えていますので、検討させていただきたいです。

No.6、7については、否定的な答えの理由も聞いた方がいいだろうということで、その方向で修正を検討していきたいと思っております。ただ、2ページ目No.7「やや不満である」というような場合の選択肢をどのようにしようか考えた時、使いづらい、お金が高いといったことがあると思っておりますが、その項目について意見をいただければと思っております。

No.8、9、10につきましては、文言については修正をします。

No.11については、国の項目ですので、このまま使っていきたいと考えております。

次のNo.12で子どもと関わる時間よりも子どもと関わる満足度を聞きたいということですが、満足度の聞き方が難しいということと、資料8の間14で「あなたは子育てが楽しいですか」という設問がありますので、それである程度代用ができるのではと考えています。

**【会長】** それでは、就学前の児童の保護者に送る調査票について意見があればお願いします。

**【委員】** 事前に要望を出した点ともう1点で計2点あるのですが、1ページ目のNo.5のところで、保育で預けるにあたり、保護者の方が重要視することの項目、もし入れば保育にかかる金額、さらに不満に思うこと、希望などを聞ければよいかと思いました。もう1点が、資料7の9ページ、施設型の病児保育に関しての質問しかないのですが、家に来てもらう形を希望している人がいるかどうかを加えていただければと思っております。

**【事務局】** 問21-3でよろしいでしょうか。どのような事業形態が望ましいと思われませんかというところに訪問型を加えるという形ですか。

**【委員】** そうですね。3か4のところで自分が行くのではなく、来てもらいたいから利用しないという形でどちらかに入れていただければと思っております。今現在の設備では、施設型しかないので、

要望として聞ける項目が入れられたらなと思うのですが。

【事務局】検討させていただきます。ありがとうございます。

【委員】病児保育、病後時保育のときに、施設型から訪問型に、という話になってくると思いますが、資格や安全管理が問題となってくるので、「その他」の中でそれが出てくればよいと思います。施設型も進んでいないので、そこまで設問に入れる必要があるのか検討する必要があるかとは思っています。実際にたくさんニーズが出てきたとしても受入れ組織をつくるのがかなり難しいと思います。

【委員】中学2年の子が小さい頃はフルタイムで働いていて、病気がちで職場を空けられなくて挫折してしまった経験から言うと、やはり熱があつてうなされている子どもを遠くの病院に連れて行くというのは大変なので、家に来てみてもらいたいです。私が子育て支援をしている中で聞くのは、ファミサポさんがなついているということです。迎えにいくと手を広げて寄ってきてくれるような子が熱を出している時に、やはり母親としてもそういう人になら安心してみてもらえます。ちょっとの熱だったら知り合いのおばさんとしてみてあげているような、個人がリスクをかぶって頑張っている人もいますので、できればそういったお母さんたちのニーズをみて、施設型ではなく訪問型に進めてもらいたいです。リスクや大変さは分かるのですが、他の区のNPOで朝8時までに電話をしたら必ず派遣するところもあるので、区や行政で力を合わせたらできるのではないかと思います。ただ、そこは会費が高く、私の子育て支援のところにも登録しているママもいるのですが、やはり会費が高くて、それを払うために働きに行っているようなものだと思います。経済格差で利用できるママとできないママがいるというのは残念なことだと思うので、リスクがあるのは分かるのですが、そこをミッションとして子育て支援をバックアップしていく覚悟で進めていっていただけたらと思います。

【会長】ありがとうございます。その点について事務局の方はいかがでしょうか。

【事務局】国から示されているのがこちらの項目だけになりますので、これについて国のほうでどういった議論があつたのかを確認して、項目をどうするか考えさせていただきたいと思います。

【会長】他にいかがでしょうか。就学前児童の保護者に送る調査票についての検討ですが、他にご意見はありませんか。よろしいでしょうか。それでは、ひとり親世帯の調査票の説明をお願いします。

【事務局】ひとり親世帯の調査票について資料11と参考資料をご覧ください。事前にいただきましたのは、養育費について、問17で「取り決めをしていますか」ということを聞いているのですが、「養育費をもらっているかどうか」の方がよいのではという意見をいただきました。資料11の問20で「相談できる人は誰ですか」という項目がありますが、相談先として「インターネットの掲示板」もあるのではないかとのご意見もいただいております。この相談できる相手についての調査項目は、就学前児童、就学児童にも同じ内容がありますので、「インターネットの掲示板」という項目を入れるかどうか検討させていただきたいと考えております。

【会長】それでは先ほど委員から、ひとり親世帯になった理由を問う必要があるかどうかという質問がありましたがいかがですか。

【事務局】理由につきましては、現在、離婚か死別か未婚かで受けられるサービスの内容が違うというのがありますので、その辺りのニーズを拾う意味で理由は必要かと思っております。なかなか、ひとり親世帯に対する調査をしていないので、困窮度であったり考えると声を上げられない

けれど一番支援が必要な方たちではないかと考えています。前回はやっている調査ですので今回も行っていきたいと考えています。

【会長】その他いかがでしょうか。ひとり親世帯に送る調査票に意見がありましたらお願いします。

【委員】6ページの間23の「職種は何ですか」とあるのですが、福祉職はどこに入るのでしょうか。介護士や保育士の仕事をしている方は国家資格を持っているので、専門職に入るのか、保育サービスや介護サービスに入るのかどこに入るのか分かりませんでした。職業の分け方で、システムエンジニアというのも浮かんできません。

【事務局】保育士は専門職に入ると思うのですが、例の出し方は精査していきたいと思います。

【会長】分類は他のものと比較したり、モデルになるような調査票で、職業の分け方はあるのでしょうか。

【事務局】こちらは前回の調査と同じ内容で設定しております。

【会長】例の出し方を検討してください。

【委員】細かい項目のことで4点あります。まず、3ページの間10、「誰に相談しますか」の「5. 地域の子育て仲間」というのが、近所の知人ではなく子育てサークルのことを聞きたいのか、学校のママ友なのか曖昧で項目が分かりにくいと思いました。4ページの間15で「子育てサークルに参加していますか」とあるのですが、子育てサークルだけが地域の子育て支援なのかなと読んでいて気になりました。母子家庭、父子家庭の方にのんきなことを聞くと言われてしまいそうなイメージを受けました。間16の「地域でどのような取り組みが必要だと思いますか」という中で、子育て中の親や子どものみで、「異年齢の人々が交流できる地域コミュニティ」が入っていません。子育てと子どもだけを切り離すのではなく、地域と交わる活動を入れていただけたらと思いました。間26の「帰宅するまで何をして過ごしていますか」というところで、「学童クラブ」、「放課後子どもプラン」、「児童館」などの項目は入れないのでしょうか。

【会長】今の質問についていかがでしょうか。

【事務局】特に、間26について、「学童クラブ」が抜けているというのは、貴重な意見だと思うので内容を精査して地域での取り組みについてもふれていきたいと思います。これについては前回並びでもあまり検討しておりませんので、今後検討させていただきたいと思います。

【委員】2ページの間6-1、2の5、「保育園・幼稚園が利用しやすい」、「しづらい」とありますが、これは特段北区におけることではなく、先般、保育園の入園についてうかがった時、東京都や国の制度なのでその辺りについては何ともし難い制度であるとお聞きしました。そうなる設定が「北区における子育てについて」という文言が必ずしもふさわしくないと思います。ひとり親だとポイントが上がって入りやすい、あるいはそのために入りづらいということを知っているのですか。

【事務局】現在、待機児童が少ないとそこに引っ越してしまうことがあり、北区の子どもの人口が増えているのは待機児が少ないという側面もあります。そういう面で、幼稚園・保育園が充実しているので利用しやすいということも含めた設問かと考えております。

【委員】2ページ目は、ひとり親とは関係ない質問でしたか。

【事務局】これは他の就学児等でも同じ設問をさせていただいております。

【会長】他にはいかがでしょうか。今、ひとり親世帯の調査票についてご意見をいただいております。



す。

【委員】 2 ページ目もひとり親の続きですよ。

【事務局】 ひとり親の調査票ですが、こちらの内容については他のひとり親でない保護者にも同じように聞いておりますので、それと比較というのもできるかと考えております。

【委員】 「利用しやすい」とはどういう意味ですか。ポイントが付くといったことですか。

【事務局】 「入りやすい」ということです。表現については、検討させてください。

【会長】 他にご意見はいかがでしょうか。問 2 3 の職種について、もし意見があれば、事務局にお寄せいただきたいと思えます。他に、ひとり親世帯への調査票について意見はありますでしょうか。

それでは、次に進みたいと思えます。4 番目の 1 2 歳から 1 8 歳の区民に送る調査票の説明、事前にいただいたご意見についても説明をお願いします。

【事務局】 資料 1 2 と資料 B として調査票の形になったものをお配りさせていただきました。資料 A の 6 ページをお願いします。中高生調査について、前の調査と大きく内容を変えております。資料 1 2 を見ていただくと分かるように、前回後期計画の調査のときに入れた項目からその後施設をどのように利用しているか、どういうものがほしいか、中高生の居場所を充実させていこうということで調査票をつくらせていただきました。

資料 A の 6 ページ、項目番号 2 1、インターネットやスマートフォンがコミュニケーションツールの主流になりつつあるということで、パソコンの使用やインターネットの使用状況について、漠然と聞くよりも中身を聞いたほうがよいのではということで、資料 B の 5 ページに、「どの程度利用していますか」というほかに、「どのような理由で使っているのか」、「親との取り決め」、「トラブルになったことがないか」などの項目を入れさせていただきました。また、No. 2 2 についてもこちらで反映をさせていただいております。「インターネット」については、文言の定義として、携帯やパソコン、スマートフォンを含んだ形で設問の設定をしております。No. 2 4、問 2 3 で「あなたは将来どのような仕事に就きたいですか」ということで、一番目の項目ですが、「一流大学、大学院を出て、自分の望む仕事に就きたい」という設定ですが、こちらについては、前回との比較をしたいということで、あえて同じ質問をしております。これについてもご意見いただければと思えます。悩み事、相談先のことについて、2 ページ 3 ページの流れですが、前回出した項目の流れを変えて、まず「悩んでいることはどういうことですか」というところから「一番辛いと思ったことはどんなことですか」「誰に相談できるか」という流れにしました。問 1 2 で「相談できる機関」については紹介を含めていくつか挙げさせていただきました。問 1 2-1 で「知っている機関は何ですか」という聞き方になっているのですが、「相談先を知っていますか」という問いかけにした方がよいのではと思っております。そちらについても、まだあまり知られていない機関などを含めてご提示していただければと思えます。設問項目や選択肢はいろいろのご意見をいただいて、直しを入れておりますので、前にメールでお渡しした内容と少し違っています。資料 B の内容について意見をいただければと思えます。

【会長】 中学生や高校生を対象とすることだと思えますが、いかがでしょうか。

【委員】 まず、問 1 1 「あなたは、何か相談したいことや聞いてほしいことがあったとき、気軽に話せる相手はいますか」という項目で、「ネットの知り合い」や「ネットの友達」というのを

入れられたら入れていただきたいと思います。会ったことはないけれどネットで友達というのは今の中高生にはいたりするので、加えていただければと思います。5 ページ目の問 20 で「自宅でインターネットをどの程度使用しているか」ですが、頻度を聞く理由を教えてください。「インターネット」というとあまりにも漠然とするので、アプリやオンラインゲーム、SNS、ラインなどの利用状況を聞いた方が今の事情にあっているかと思いました。問 23 で「将来どのような仕事に就きたいですか」という項目で、「起業したい」という項目があったらいいかなと思いますので入れていただきたいです。

【会長】いかがでしょうか。

【委員】今、「ネットの友達」という話が出ましたが、先ほどの親御さんに聞くのも「インターネットの掲示板」を入れた方がいいのではないかという話があったように、ツイッターなどのフォロワーさんや、インターネットで相談しているという方は親世代にもあるので併せて入れた方がよいと思います。問 11 について、問 12 で相談機関を聞くために問 11 では「相談機関」が入っていないのだと思いますが、問 11 に「相談機関」を入れるのもよいのではと思いました。問 20 は「自宅で」ということを限定する必要があるのかどうかというのもお聞きしたいです。

【会長】お二人のご意見について事務局の方はいかがでしょうか。

【事務局】問 11 については、中学生、高校生の内容に合わせたものにしていきたいので、実際に中学生・高校生のいる方のご意見も反映していければと考えております。インターネットをどの程度、どこを聞きたいかも事務局でも迷いがあります。いろいろ問題になっていることも多いと思うのですが、頻度を聞いても無駄ということもあるかもしれませんし、時間的に聞くのがよいのか、「自宅で」と使ったのは「学校で」というのがあるかと思い、「学校以外の時間で」という意味で「自宅で」という書き方をしています。そうすると反対にここは「学校以外で」とした方が分かりやすいのではと考えております。

【副会長】「自宅で」ということであれば、場所を指定するというよりはいわゆる“場所”を指しているわけではないと思います。自宅と学校の間にいる時もありますので、「家にいるときは」というような説明があると、学校で使うのとは違うという表記ができると思います。質問の趣旨と表現の仕方だと思います。

【委員】実際、スマホをやっている子たちは、ほとんど SNS やフェイスブック、ラインやオンラインゲームをやっています。ゲームをやり始めれば数時間やっているのは当たり前ですし、フェイスブックやラインはコールがあれば全部それも入れるので、回数というのが実情に合っていないです。実際に子どもたちが何をやっているかを見てこの設問を決めていかないと、どこに丸を付けていいか分からないので、実情に合わせた方がよいと思います。

【委員】大学でスマートフォンなどの利用時間を学生に聞いているのですが、見ると恐ろしい時間使っています。「一日でどのくらいの時間を」という聞き方をすると、恐ろしいほど使っていることが見えてくるのではないかと思います。

【会長】その辺りのことは検討していただきたいと思います。

【委員】問 20 の 3 で「ネットをやってトラブルになったことがありますか」という設問で、「ある」、「ない」だけではもったいないと思います。これは非常に大事な問題だと思いますので、トラブルがあったとするならどのようなことなのか、選択肢をいくつか提示して答えてもらい、

場合によってはその後どうしたかまで聞けるといいかと思います。トラブルの問題は非常に重要ではないかと思いますが、追加して設問を加えていただけるとありがたいです。

【委員】冒頭にも申し上げましたが、問22で「将来の仕事や結婚、子育てについておたずねします」についてです。12歳から18歳という中学生・高校生の生徒さんに、「結婚などは個人の自由だからしなくてもよい」など、いろいろな結婚に関する質問があるのですが、このようなことを聞くこと、調査する必要性があるのでしょうか。大人が考えても難しい選択肢があると思います。また、上の質問と番号がダブっているので訂正していただければと思います。先ほどの資料Aの質問の中に、「一流大学」がいないのではというご意見があったのですが、「一流大学」という言い方自体どうなのでしょう。「大学と大学院を出て」という表現で十分、質問の意図は伝わるのではないかと思います。

【委員】6ページの「次のような考え方について」というところで、個人的な意見ですが、高校生の娘は将来に対してのビジョンをおぼろげながら持っていて、何年後にこういう風になっていたらいなというの、みんなそれぞれ持っていると思います。逆にこの設問で自分の将来について考えてもらうこともよいのではないかと思います。大人になってみると子どもの頃思ったとおりに絶対いかないというのは分かっているのですが、今、子どもが将来に対してどういった期待を抱いているのか、もしくはあまり期待していないのかということを考えるうえではいい設問だと思います。

【委員】問22の今の件に関して、私もあってよいのではないかと思います。全部は聞く必要はないかと思ったのですが、全体的に子どもが将来に対していいイメージをもっていることが把握できたら、その子の家庭で、よい子育てができていというような捉え方ができるのではないかと思いますので、ここで聞くと、現状、家庭内でどのような育児ができていのか感覚がつかめるのではないかと思います。

【委員】問23の方で、「一流大学・大学院を出て」というところについて質問ならびに意見です。「一流の大学・大学院を出て、自分の望む仕事に就きたい」というのは出ないとつけないという裏の意味がありますでしょうか。つまり、大学を出なくても自分の望む仕事に就くということがこの先はできるのではないかと思います。教育においても、形のある大学ではなくインターネットなどオープンな教育機関で教育を受けた人が起業するといった形で自分の望む仕事に就けるのではないかと思います。その意味において、項目が増えるかもしれませんが、一流大学と入れているのが前回の結果との比較のみということであれば、質問者のバイアスがかかっているように見えるので、そこは少し再考したほうがよいのではないかと思います。

【委員】問22の項目については、我が子を見ていてもビジョンとして持ってほしいと思っているので設問としてあってもいいかと思うのですが、「ケ」の「子どもが3歳になるまで」というところは、今更ながらこの設問はやめてほしいです。何か表現を変えていただきたいと思います。

【委員】事務局に10か所くらい意見を出したのですが、子ども・子育て会議ではいろいろな課をまたがった内容もありますので、調整をされたうえで、Aの用紙をつくられているのかどうかというのがまず1点。そして、私も「一流大学」については質問を出したのですが、前回・前々回を含めて人権教育の話で質問された方がいましたが、単純に比較とはいえ、偏見だと思います。変えるべき内容はきちんと変え、前回調査の質問項目がよくなかったのであればそこは考

える必要があると思っています。

【事務局】教育指導課を通じていただいたものについては、教育指導課さんからお返事をさせていただいたものもあるかと思います。お返事してくださるということだったので、お任せしておりました。庁内での調整ができていなく申し訳ございません。いじめや体罰について聞くのはどうなのかというご質問がございましたが、これは無記名でとっている調査票ですので、それについて問題はないと思っています。反対に、いじめや体罰は少なからずあるという認識の下、やはりそういうものがあるからいろいろな対策や相談機関が必要だということになるのではと考えております。「どんな職業に就きたいですか」の中身については、どうかということもありますし、中身についても「起業したい」という項目を入れてほしいということも含めまして、この間については検討させていただきたいと思います。

【会長】他にいかがでしょうか。

【委員】「一流大学」は、残したいという意見がないのであれば素直に消したほうがよいのではないかと思います。以前に、他の会議で自治会の会長が、今回どういうよい高校に行きましたかという質問を校長先生にされました。私はそれを遮ったのですが、なぜかという、その学校の校長先生が名前を挙げない学校はよくない学校である、優秀でない学校であるというように、偏って受け取られがちだからです。今回の「一流」についても発言されている方々はない方がよいということなので、こだわらないで消した方がよいかと思いますがいかがでしょうか。

【事務局】そのようにさせていただきたいと思います。

【委員】2ページの問7-2「北区の嫌いな理由は何ですか」の中に、「友達がいらない」という回答項目を加えたらどうかと考えています。問7-1で10番の回答で、友達がいるから北区が好きですという回答があるので、嫌いな理由としても回答として必要なのではないかと思います。子どもたちというのは友達つきあいが好きで、いろいろな話をする機会も多いと思っていますので、入れたらよいのではと思います。

【事務局】「好きな理由」と「嫌いな理由」のところは、うまく対比ができるような内容も入れ込んで設定させていただきたいと思います。

【委員】一番最後の設問で、「北区の子どもを対象とした取り組みや北区に定住するための条件について」とあるのですが、12歳くらいだと「定住するための条件」という言葉が分からないかなと思いました。

【事務局】こちらは「住み続ける」という形になると思います。

【委員】問22の言葉で引っかかるところがあって、「ウ. 結婚しても別々の苗字のままにすることもかまわない」というと、わざわざ別の苗字にするという感じですので、「別々の苗字のままでもかまわない」あるいは「苗字のままでもかまわない」どちらの方がずっと入ってくると思います。次の設問で、「必ず子どもを持つ必要はない」というと分かりにくく、「子どもを持たなくてもよい」くらいでよいのではないのでしょうか。「必ず」「必要」など、そういったことで子どもはつくるものではないと思います。

【事務局】その他、文言で何か意見があればお願いいたします。

【委員】例えば、「結婚したら子どもがほしい」という人はほしい方に○をつけるし、「つくりたくない」、「いらぬ」という人は反対の回答になると思いますので、言葉を整理した方がよいのではないかと思います。将来設計として「結婚して家庭を持ちたいですか」という質問は

よいかと思うのですが、「離婚してもかまわない」ですとか、「子どもを何歳まで育てたい」など、大人が考えても悩んでしまうような質問は、「将来家庭を持つ」、「持たない」、「子どもをつくる」、「つぐらない」など、簡単な質問にしたらどうかと思います。

【事務局】こちらの文言は一回精査したいと思います。

【委員】「好きか」、「嫌いか」だと答えづらい部分があるかと思うのですが、せっかく質問するのであればどうしたら魅力的な北区になっていくか、子どもたちの自由な発想から我々がヒントを得るような項目があってもよいのかなと思いました。

【副会長】問22を精査する際に、22番から24番くらいまでは関連していると思います。24番の中で10年後20年後のことを思い浮かべて結婚のことも聞いており、その項目と22番の中にも同じような項目があり、何度も同じことを聞かれているように思います。この年代の持っている結婚観、子育て観を聞きたいのであれば、何を聞きたいのか少し項目を整理していった方が素直に答えてくださるのではと思います。「妻の意見を尊重した方がよい」というのも、高校生に聞くわけですから、状況が分かりやすい言葉と、ここで何が聞きたいのかを絞りながら精査していただきたいと思います。

【委員】問25で、「男」と「女」しかありません。しかし、いろいろな家庭があって、同性同士で暮らしている人も少なくないですし、男と女がいないと家庭でないというような感じがして、男性と女性が一緒にいない家庭の選択肢もないと答えにくいかと思います。パートナーと一緒に暮らすようなイメージもあって然るべきかと思います。

【事務局】今のご意見については、検討させていただきます。中学生と高校生に聞く内容なので、どこまで入れ込むのがよいか検討させていただければと思います。

【会長】おそらく25は性別役割分業の是非について聞いている設問かと思いますが、精査してください。

【委員】問1の性別についても、精査するときを考える必要があると思います。川崎市などでやっている場合は、「男性」と「女性」ともう1つ「答えたくない」というものも一応つけます。

【委員】私は2年ごとにいろいろなところに引っ越しており、他県に住んでいた経験もありますので、そのような観点からこの調査票について思ったことを言いたいと思います。「北区についてうかがいます」という一番最初のところなのですが、「あなたは他の地域に住んだことはありますか」、「他の地域と比べてどう思いますか」、「他の地域と比べてどのようなところが好きですか」という質問があるとよいと思います。もし、転勤に伴う引越などいろいろな地域を経験した方からヒントをいただき、そこからまた新しい政策ができると思います。

【事務局】全体の設問数も見て考えさせていただきたいと思います。

【委員】5ページの「北区の施設の利用についてうかがいます」で、「北区の施設」に説明文書のようなものはつきますか。中高生でどれが公共の施設なのか知らなかったり、カテゴリーに「スポーツ施設」があると混同してしまうのではないかと思います。

【事務局】北区の施設かどうなのかという部分は、あまり考えなくてもよいかと思っています。公共的施設を利用したことがあるかくらいのイメージで、「北区の施設」と書かせていただきました。スポーツ的な施設は使ったことがあるが、図書館は行ったことがない、くらいのことが分かればと思っています。

【委員】北区の施設を利用したことがあるかの有無と、問21-1の「図書館」、「児童館」、「スポ

一ツ施設」、「北とぴあ」、「その他」のところの最後に6番として「利用したことがない」というように入れてしまえば1つの設問になるかと思います。先ほどからもお話にあるように、問25の「あなたは将来どのような家庭をつくりたいですか」という設問で、どういうところをアンケートとしてピックアップしたいかということによるとは思うのですが、将来目指したい家庭像というのは、家庭の中の役割分担だけでなく、家族仲のよい家庭や友達を迎えやすい家庭といったような人間関係的なイメージを持つのではないかと思います。質問の意図を明確にしてもらい、それに基づいた質問の内容を考えたらよいかと思います。私達が単純に思うのは、仲良しの家庭がよいというような人間同士の繋がり合いのイメージを持ちます。問25の設問の意図と違うのであれば、質問の仕方を変えなければいけないかと思います。

【事務局】こちらの質問の意図は、性別役割分業などの男女共同参画の視点からの設問だと考えております。

【会長】「どんな家庭を築きたいか」というのも入れた方がよいという意見もあるのではないかと思います。

【委員】問9でいじめや体罰のお話も出ていたかもしれませんが、暴力、体罰、虐待に関する項目を入れた方がよいのではと思います。確かに問10で聞いてはいるのですが、“一番辛い”と限定してしまうので、問9のところでも暴力関係は入れた方がよいのではと思いました。併せて問13-1も体罰、暴力関係が入ってもよいのではと思います。

【会長】問9、10のあたりは、事務局の方いかがでしょうか。

【事務局】こちらの内容については検討させていただきます。問9のところに「暴力」、「虐待」については入れられると思いますが、学校にいきたくない理由に、「暴力」、「虐待」を入れられるのかどうかは教育委員会と検討させていただきたいと思います。

【会長】他にいかがでしょうか。

【委員】問10「あなたが今までで“一番つらい”と思ったのはどんなときですか」の項目で、「居場所がない」というのも入れたらどうかと思います。中高生の居場所づくりのためには必要な項目かと思うので、ぜひご検討ください。

【会長】入れていただくということで、検討してください。他にはいかがでしょうか。

【委員】今、「居場所で」という話が出たので、「意見を聞いてもらえない」というような項目ももし入ったら検討いただきたいと思います。

【会長】「意見を聞いてもらえない」というのは「誰に」というのはありますか。

【委員】「誰に」というのを入れると複雑になってしまいますが、「自分の意見を聞いてもらえない」と考えています。

【会長】それでは今のご意見も検討ください。

【委員】問24ですが、「あなたの家族」というと、独立して一人暮らしをしているというのも家族のことなのかと思いました。また、一人暮らしをしても自立していない子もいます。親と一緒に暮らせなくて別居しているという人もいます。ここでは、一人で暮らすか、結婚するかのどちらかしかありませんが、家族にはもっといろいろな形態があると思います。同居している人と結婚していなくても家族だという考え方も広くありますし。ここでイメージできない人が5の「わからない」となってしまうというのは少し不思議な感じがします。パートナーがいる場合は結婚していなくても家族と言えますし。

【委員】今のご意見に私も同感で何がひっかかるのか考えていたのですが、問24、25ともに伝統的な家族観、伝統的な役割を是とする、何かのバイアスをかけて設問がつけられていないでしょうか。パートナーと暮らすというのは割と新しい概念ですので是非はあると思います。ただ、問22からそうなのですが、バイアスがかかって設問がされているように感じます。設問の意図としてそちらの方向に回答をもっていきたいという意図があるのでしょうか。それとも単純に今までの考え方とおりにやっていったらこうなってしまったのか。もし、設問の文章を含めて検討していただけるのであれば、設問にバイアスがかかっていないかということについても少し気にしていただいた方がよいかと思いました。

【事務局】「将来の仕事や結婚、子育てについておたずねします」というのは5年前の調査の内容と変えていないので、時代は動いているということもありますし、内容については検討させていただきたいと思います。

【会長】その辺りは丁寧に検討していただくということでお願いします。他にいかがでしょうか。中高生の調査票については一端切ります。5番目の調査票、小学生本人の調査票の説明をお願いします。

【事務局】前回資料13を項目だけお出しいたしました。追加で選択肢を入れたものをメールでお送りし、資料Cとして小学生に対しての調査票の形式にしたものを配りました。

資料Aの6ページをご覧ください。No.25から小学生のものになっております。お住まいの地区についてですが、小学生は5年生を考えており、今までのものは郵送で行っていましたが、5年生につきましては学校で回答してもらうことを考えています。住所が要らないのではというご意見がありましたが、他のものについても地区ごとではなく、住所で書く形に変更させていただこうかと思っています。実をいうと、滝野川西地区というかなり広い地域になっています。板橋駅前の7丁目から田端6丁目まで全部含めて滝野川西地区になっていますが、田端と板橋では需要などもずいぶん違うと思うので、後々いろいろなことで住所での抽出ができるように、地区ごとにとるのでなく町名を五十音順に並べて、書いていただけるようにと思っています。小学生に関する調査票の細かい点ですが、学童クラブなど、いただいたご意見をかなり反映した調査票をつくっております。「学童クラブには何年生まで通えた方がよいか」というのは、学童保育に通っていたお子さんに聞こうと思っています。放課後子どもプランの実施校と未実施校で違ってくると思いますので、「放課後の過ごし方」について、「放課後子ども教室」というものの項目を付け加えております。

資料Cの2ページ目で「夏休み、冬休み、春休みの過ごし方」というところを、前の項目では「長期休暇」と書いてありましたが分かりにくいということで表現を変えています。「パソコンの利用状況」についてですが、やはりこちらもどのくらいやっているのか量の問題については、まだこれから精査が必要かと思っています。自分の家でどのくらいパソコンをすることがあるのかということや、自分専用の物を持っているか、携帯などの使用について取り決めなどを行っているのかということについて、入れています。「悩み事」についても、調査票の4ページに、「相談先」や「どのようなことに悩んでいるか」について、項目を出して答えてもらおうと考えています。

資料Aの7ページ、No.34の「公園」については、いくつか選択肢をあげて、「その他」で書き込める形式としています。小学生に対する調査票は量的に4ページが限度かと思っています。

すが、内容については初めてやる調査ですので、放課後や長期休暇をどのように過ごしているのかを聞きたいと思っています。子どもたちの声を聞ければと思って調査票の作成をしていますので、ご意見をいただければと思います。

【委員】まず、「過ごし方」についてですが、「宿題をどこでやることが多いですか」という問8、問11の設問は要らないと思います。また、「どこで過ごしているか」ではなく、土日や長期休暇のときに、家族が家にいるかどうか、一人で過ごしている高学年の子どももいるのでそういった事情も調べられればと思いました。4ページの間16「北区にどんな公園があった方がよいと思いますか」で、「キャッチボール」や「バスケットボール」などの具体的なものが入っているのですが、「サッカー」や「野球」はどうなのかというつっこみが入りそうなので気になりました。

【会長】今のご意見について事務局から何かありますでしょうか。

【事務局】「公園」については、例をどうあげればよいのか、「スポーツができる公園」という表現でよいのかどうかは検討したいと思います。「宿題」については、放課後子どもプランを広げていくにあたり、5年生の子の過ごし方を聞きたいと思い入れました。反対に、自分の家においても、一人でいるのと、親といるのとでは違うので選択肢をどのようにしていくかは、また他の方にもご意見いただければと思います。

【委員】「放課後の過ごし方」について、放課後子どもプランが認知されていない、実施していない学校ではほとんど分からないということでした。問7、8の「どこで過ごしたいか」といった設問について、「学校」と入っていますが、実際に放課後や夏休みなどに学校にいるという選択はありなのでしょうか。放課後のプランや教室をやっているところは選択がありますが、通常の場合、放課後というのは学校が終わったら帰るという考え方ではないのでしょうか。

【事務局】今、お話があったように学校開放等があれば、学校というのも可能性があるとあります。ただ選択肢として、そこまで大きなものになるかというところが限られるところもありますので、検討したいと思います。

【委員】祝日や校庭開放がありますので当然そのあたりはそうだと思いますが、通常の平日の放課後は、「学校」という選択はないのではという認識でいます。

【会長】事務局から何か説明はありますでしょうか。

【委員】今、他の委員から、小学校も部活があるのではとご指摘いただいたのですが、私の感じでは小学校に部活というのは基本的にはないというのがあります。特別に陸上大会などがある場合は事前の練習で放課後に指導をうける場合がありますが、中学校のような毎日行われている部活はないという認識でご質問しております。

【事務局】小学校は基本的には部活動はないと申しましても、金管バンド等いくつかの課外の部活動があるケースもあります。また、放課後といっても30～40分の校庭開放や残って勉強する、図書室で過ごすということも可能性としてはあります。

【委員】平日の放課後は校庭開放を行っていますか。

【事務局】放課後子ども教室を平日にやっていない学校は平日の校庭開放をやっているところもあります。地域のスポーツ団体を放課後に利用している場合もありますので、まったく放課後に子どもが一切いないということにはならないと認識しております。

【委員】一般的に学校という認識で理解をしていました。



- 【会長】他の意見はありますか。
- 【委員】一番最後の「どこに相談しようと思いますか」という設問で、小学生で「育ち愛ほっと館」や「児童相談所」、「教育相談所」などに相談する子どもはいるのでしょうか。親御さんが行くのではないかと思います。「よいこに電話相談室」とは限らず、「電話相談」でよいのではないのでしょうか。
- 【事務局】子ども家庭支援センター（育ち愛ほっと館）にありますが、子どもと家庭の総合相談を受けています。少ないですが、小学生や中学生から相談を受けることもありますので、ここに載せてもらえるようお願いしました。
- 【会長】「よいこに」はなくして、「電話相談」だけでもよいのではというご意見でしたが、これについてはいかがですか。
- 【委員】北児童相談所です。先ほど、育ち愛ほっと館からお話しがあったのですが、チラシを子ども向けに配っていなかったのでしょうか。確かに件数は少ないのですが、本人から入ることもあります。「よいこに電話相談」は東京都がやっている番号で、そこだけをとあげると分かりづらくなってしまいますので、「電話相談」だけでもよいと思いますが、周知にも努めているところです。
- 【事務局】教育相談所についても、いじめの相談やその他直接子どもからも電話を、ということでPRをしているところなので、選択肢として個々に載っていてもよいと判断をしています。
- 【委員】問12と13は、問12-1、問13-1に「しない」を入れればスペースをカットできるのでと思います。空いたスペースを利用して、スマートフォンを持っているかどうか、携帯電話をいつから持つかがいつも議論になるところですので、どのように質問したらよいか難しいところではありますが、「何歳ごろから持ちたいか」、「持たせてもらいたいか」というのがあると、ひとつの指標になるのではないかと思います。
- 【委員】「自宅でのパソコン等の利用状況についてうかがいます」という大括りの設問なのですが、この設問の意図が把握できません。「ゲームをするかしないか」、「携帯を持つか持たないか」など、施策としてどのようにつなげていこうという設問なののでしょうか。
- 【事務局】今、子どもたちが低年齢からゲームやパソコンを使い始めています。実態としてどうなのかを把握できればと思います。親の考え方の違いで、ずいぶん違いが出てくると思うのですがその辺りがどうなるのか。それについて、親がどのくらい関わっているのかということも含めて聞きたいと思っています。実態から見て、どのようにしていけばよいのかが出てくるかと思っています。
- 【委員】これだけみると実態把握だけで終わってしまうのかなと思います。従来の、テレビやDVD、映画を見る、音楽を聴くというのとゲームやインターネットというのは同列にしてかまわないのかなと思います。実態を把握した上で、どういう施策を実態に合わせて取り入れていくのかというところまで考えないと、質問をして現状を把握しただけで終わってしまうことになりかねないのではと思います、質問させていただいた次第です。
- 【委員】今のつながりで、親とどのように関わっているのかということ把握したいのであれば、問14-2で、「ある」と答えた方に、具体的にどのような取り決めをしているのか聞いたら、さらに具体的に状況がつかめるのではないかと思います。
- 【会長】今までのところで事務局の方は「検討させていただく」ということでよろしいでしょうか。

【委員】「施設の利用状況について」なのですが、小学生が一番利用するとしたら「公園」が入ってくると思うのですが、これは「北区の施設」とは考えなくてよろしいでしょうか。その上で問16で「どのような公園があったらよいと思いますか」につなげ、先ほどご意見もありましたが、まとめて「ボール遊びのできる公園」といったような項目をつくれば、小学生のアンケートとして答えやすいのではと思います。問17の「悩み事の相談先」について、問17-2で「誰（どこ）に相談しようと思いますか」という質問に対して、1番から15番まで選択肢があります。大きく分けると、子ども同士で相談したいのか、大人に相談したいのかをまず聞いたうえで、それぞれの施設などを聞いたらよいかと思います。おそらく、「児童相談所」や「教育相談所」、「電話相談室」は分かっていないと思うので、まずは「家族」なのか、「学校」なのかという設問にすれば子どもたちも答えやすいと思いました。

【委員】問17で、中高生の質問とも整合性や関連性を図るのかどうかというところで、同じような質問を中高生にもしています。先ほどの意見の中に、「体罰」、「暴力」、「DV」なども入れたほうがよいという意見がありましたが、問17-1については、なぜ、「いじめ」や「暴力」、「体罰」などあえてそういった言葉ではなく、「友達」や「親」という聞き方にしているのでしょうか。また、「悩んでいること」から、「学校の先生」が消えています。そこに意図はあるのでしょうか。「相談相手」には「先生」が出てきています。学校でやる調査を踏まえての意図があるのか、DVや暴力の悩みの部分をどうするのか、考えを教えてくださいたいと思います。

【事務局】「悩んでいること」については、こういうことがあるのではないかと項目を挙げていますので、インターネットのことを入れたらよいのではないかと少し話をしている、漏れてしまった部分もありますので、ここに「いじめ」について入れるなどのご意見をいただければと思います。まだあまり精査できておらず、中高生と小学生の関連性もとっておりませんのでご意見いただければと思います。

【委員】私も気付かなかったのですが、「学校の先生」は書いていないようです。学校の先生とまったく合わなくて、学校に行けなくなる子もいるので、あって然るべきかと思います。「悩んでいること」で「1つに○」と書いてありますが、強烈に悩んでいることが1つとは限らず、2つ3つですごく追い詰められている子もいるので、1つ選ぶのが難しい場合もあります。全部に○をつけられたら困るというのはあるかもしれませんが、1つは絞りにくいかなと思います。

【委員】12歳から18歳への調査票の問9と比べると、12歳から18歳には「あてはまるものすべてに○」というようになっていて、小学生は「1つに○」ということで、回答の仕方が違ってきます。「学校の先生」というご指摘がありましたが、中高生には「アルバイト」などもあって19個の選択肢がありますが、小学生は8個しかないので、リンクさせるような回答の選択肢を設けてもよいのではないかと思います。高学年の5年生ではいろいろ感じていることも出てくるのではないかと思いますので検討していただきたいです。

【委員】北区には障害者の施設がありますが、アンケートは障害者の児童には行わないのでしょうか。

【事務局】現在のところ、区立の小学校5年生を対象に、学校内で配って答えてもらおうと考えています。特別支援学級がある場合は、そのお子さんも対象となると考えています。

【委員】そうすると15番あたりも入ってくるのではないのでしょうか。

【会長】 その辺りについてはいかがでしょうか。

【事務局】 内容的には「その他」という項目もありますし、取り立てて入れる必要はないかと思えます。内容は検討させていただきます。

【委員】 悩んでいることが話題になっていて、中高生と小学生を比べてみると、小学生のほうがまとめていると思うのですが、同じ項目でもよいのではないのでしょうか。逆に、中高生のところに「成績や受験のこと」についてがないので、そのあたりを入れ込めば、同じ内容でも問題ないのではと思います。

【会長】 問17の項目について意見が出ていますが、いかがでしょうか。

【委員】 併せて、「誰に相談しようと思えますか」という辺りも統一できるのではないのでしょうか。

【事務局】 中高生の中身ともう少し突合せをして検討させていただきます。

【委員】 同じような質問型にしてリンクさせ、年齢が変わったことでどう変化するかというのをみていくのであれば、同じ項目で出していくと、成長によってどのような変化がみられるのか、後で問題視できるのではと思います。「相談しようと思っている人」という部分で、中高生では「兄弟姉妹」となっていますが、小学生の場合は「兄弟」と「姉妹」とを別に考えて出していることの違いは何だろうかということも細かく言えばありますので、そこも考えていただければと思います。

【会長】 関連したご意見はありますでしょうか。問17についてご意見が出ましたので、参考にして事務局で検討していただきたいと思えます。他にいかがでしょうか。

【委員】 問14-1で気付いたのですが、携帯電話でテレビを見ている子がたくさんいると思えます。結構、外でも見ていることが多いですが、「その他」でよろしいのでしょうか。

【会長】 その辺りもよろしいでしょうか。子どもの実態を踏まえると選択肢も考える必要があるかと思えます。他にいかがですか。よろしいでしょうか。

今日は本当にたくさんのご意見ありがとうございました。委員の皆さんから出していただいたご意見を基に事務局で調査票を修正、精査して委員の皆様には、メールで送付し、それに対して何かあればメールでご意見やお返事をいただければと思います。それを基にして、次回の委員会で最終案を提示させていただくということでもよろしいでしょうか。

【委員】 ニーズ調査全体について、3点質問があります。まず1点、障害児の保護者に対して何か聞く場所が、区として日常的な窓口やニーズ調査などがあるのか教えてください。また、ニーズ調査の予算が分かったら知りたいのですが、国の予算と区の予算と、だいたいの概算でよいので教えてください。区独自で未就学児以外はやっているというお話でしたが、例えば、アンケートではなく、子どもに聞き取りを行うなどの聞き取り調査を行う予定はありますでしょうか。

【事務局】 障害児の保護者へのニーズ調査があるのかということですが、3年に1回、障害福祉計画というのを策定してまして、その際に無作為抽出で障害者手帳をお持ちの方に対してアンケート調査を実施しています。今回、次の策定に向けて調査経費をのせてやるつもりではありませんので、全件ではありませんが、ある程度ニーズの把握は行っています。

【事務局】 ニーズ調査だけの予算ではなく、子ども・子育て会議の運営や計画策定を含めた形で予算を組んであります。国からニーズ調査について補助金が出るという話にはなっていますが、どのくらいかは聞いておりません。調査そのものについてはほとんどが郵送費や集計などの費

用になると思います。聞き取り調査については、検討していきたいとは思いますが、きちんとした案ができていないので、可能であればやっていきたくて考えております。

【委員】携帯のワンセグのテレビの話が出て思ったのですが、「何歳から持たせたいか」という設問をお願いしたのですが、それとともに「子ども用携帯を持っているのか」、「ガラケーを持っているのか」、「スマホを持っているのか」、「持っていないのか」という比較をしてもらおうと、今の携帯事情が分かるのではと思いますので、検討していただきたいと思います。

【会長】他にいかがでしょうか。

【委員】就学前のアンケートの時に触れるべきだったのかもしれませんが、この中で保育園や幼稚園の具体的なニーズを拾う箇所がほとんどないのですが、それに関しては別に実施するのでしょうか。私の記憶では、1年か2年前に一度アンケートが送られてきて、かなり具体的な現状を記述式の細かいアンケートで答えたことがあるのですが、そのようなもので具体的にするのでしょうか。

【事務局】ニーズはこの調査で拾うという形になっています。以前に調査票がいったのは保育計画をつくるにあたっての調査だと思います。こちらの調査票では、どのくらいの方が就労していて、どのくらいの方がフルタイムで働いているのかというような全体の量を把握する調査になると思います。

【委員】ニーズは量を把握することに重点を置いているということですね。サービスの内容についてのニーズは拾う予定ではないということでしょうか。

【事務局】項目としてサービスを選ぶときに、どういうことを重視するかという設問を入れたらどうかという意見がありました。時間を求めるのか、費用を重視するのか、中身を重視するのか、どういった視点で選ぶのかということを、その項目を入れることで検討ができるのではないかと考えています。今回はまず量をつかむということで国から示されていますので、それ以外のものについては聞くことが量的に難しいと思っています。検討させていただきたいと思います。

【会長】他にご意見はよろしいでしょうか。それでは最後に次回の会議の日程を確認しておきたいと思います。事務局お願いします。

## (2) その他

【事務局】本日は長時間いろいろなご意見をいただきありがとうございました。事務局で精査し、目標は来週末を目途にメールでお送りします。内容をご確認していただき、またご意見がありましたら、次回が10月4日ですので、前の週くらいまでに事務局までお寄せいただければと思います。メールを送る際にいつまでにというのも送らせていただきます。できるだけ、次回の会議で内容を確定させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

今回は10月4日金曜日、午後6時半から北とびあの7階第2研修室で予定しておりますので、お願いいたします。その次は12月11日を予定しております。

【会長】それでは最後に閉会のごあいさつを副会長お願いします。

## 3 閉会

【副会長】臨時の会にも関わらず、皆様お集まりいただきありがとうございました。また、熱心で活

発な討議でこれからの子ども子育てに熱い思いを感じる次第です。北区の調査の特色は、前回、幅広い子どもを対象とした次世代育成支援行動計画を立て、それを実施してきたというところがあり、それに基づいた新たな行動計画を立てていく際の資料を得ようとしているところで、大変幅広く0歳から18歳が対象となっているところにあるかと思います。

ただ、この調査をすると大変分厚い2、3センチの資料になるのですが、実態把握なのか、施策の裏付けなのかでいうと、どちらかといえば施策を立てていく根拠になるものだと思います。いわゆる一般的な調査として、確かにあれもこれもという思いはあるのですが、次代の子ども子育てに関わる北区の施策を立てていく際の裏付けになるものですので、今日出てきた意見の中から、質問の意図を明確にしながら精査していくということが大事だと思います。今日出てきた意見から、精査しながらより良いものをつくっていくことが大切だと思います。そういう意味では皆様からたくさんの意見をいただきましたので、限られた時間で事務局のほうは大変かと思いますが、よろしくお願ひしたいと思っております。

【会長】ありがとうございました。それでは閉会とさせていただきます。